

## 平山郁夫 シルクロードコレクション展

夫妻の視点が織りなす、人類への遺産

そごう美術館（横浜そごう・西武6階） 2017.10.27～12.03



日本画家・文化勲章受章者故「平山邦夫氏」は、数十万キロのシルクロードを数十年にわたり訪れ、往古を想い歴史のある魅力の土地を題材にした作品を描いている。

本展は、文化財保護に力を注いだ画伯の絵画など「平山郁夫シルクロード美術館」（山梨県北杜市）の所蔵品が中心である。

展覧会構成は、画伯が日本美術の源流を求め、東西文化交流の道であるシルクロードを1968年から40年以上にわたり訪れ、地中海海域、西アジアのアフガニスタン～東アジアのウズベキスタンなどへの「旅」を皮切りに、絵画や装飾品の収集品を紹介し追体験できるようにされている。

《パルミラ遺跡に行く・夜》 写真の左上は作品の部分

東西文化交流のシンボルとされるラクダの隊商が精密に描かれたロマン溢れる大作で、過酷な自然環境を超えて耐え抜きたいにしへの旅人への思いと、永遠の「平和への祈り」が執悠の時を超え壮大なスケールで描かれた大作である。



本展では、夫妻の視点が織りなす平山芸術とシルクロード文化に魅力があり、古代から近代に至る「約170点」もの「精緻で高価な金銀装飾具」や「薬師寺玄奘三蔵院壁画の天下絵」などが、余すところなく紹介されているため圧巻であり見物である。

《シリアで出土された美しいガラスビーズの首飾り》 前14～13世紀 メソポタミア